同志社大学

2025年度教員採用試験

合格体験記

目　　次

１．　＜文学部英文学科　S.Y.＞英語科　私立　　中学校、高等学校

２．　＜文学部英文学科　U.S.＞英語科　静岡県　　中学校

３．　＜文学部国文学科　F.M.＞国語科　私立　　中学校、高等学校

４．　＜文学部国文学科　F.M.＞国語科　私立　　高等学校

５．　＜文学部国文学科　K.R.＞国語科　愛知県　　高等学校

６．　＜文学部国文学科　M.H.＞国語科　静岡県　　高等学校

７．　＜文学部国文学科　N.S.＞国語科　名古屋市　　中学校、高等学校

８．　＜文学部国文学科　N.N.＞国語科　私立　　中学校、高等学校

９．　＜文学部国文学科　O.H.＞国語科　京都市、香川県　　中学校

１０．＜文学部国文学科　S.T.＞国語科　大阪府　　高等学校

１１．＜文化情報学部文化情報学科　I.K.＞地理科　茨城県　　高等学校

１２．＜文学研究科文化史学専攻　I.T＞地歴・公民科　京都府　　高等学校

１３．＜経済学部経済学科　M.R.＞京都市　　小学校

１４．＜社会学部社会福祉学科　F.R.＞京都府　　小学校

合格体験記

文学部英文学科
S.Y.

合 格 先： 私立学校
校種・教科：中学校・英語、高等学校・英語

1．受験した自治体・学校の試験内容について

公立の教員採用試験は、一次試験と二次試験に分かれていました。一次試験では教職教養、一般教養、専門科目の選択式の筆記試験が行われました。教職教養は大学の教職課程で学んだ内容がそのまま問われました。文部科学省が出している文書を基に出題された問題が多かったです。一般教養は範囲が広く、中学・高校で習った 5 教科に加え、音楽や美術などの実技教科からも出題されました。これらの中から 10 教科が選ばれ、各教科について 2 問ずつ出題されました。二次試験では個人面接が 2 回行われたほか、英語の実技試験と適性検査も実施されました。専門教科の試験では、リーディング3問と学習指導要領からの出題でした。私大入試レベルの出題でしたが、内容は言語学や教育心理など少し専門性が高い印象でした。

私立高校の採用試験については、1 校目は遠方であることに配慮いただき、校長先生と教頭先生による学校説明会を兼ねた面接と小論文が試験内容でした。面接では、教員採用.jp というサイトを通じて事前に提出した履歴書情報や教師像、大学での学びについて共有されていたため、質問されることは少なく、主に学校側の説明を聞き、こちらから質問をする形で進められました。2校目は、自己推薦書を含む書類選考の後、英語の筆記試験、3回の面接（英語科、管理職、理事長校長）、そして模擬授業が行われました。筆記試験は、共通テストレベルのリスニングと国立二次レベルの記述式リーディングが課されました。英語科教員との面接では、模擬授業で意識したことやその成果、自己推薦書の内容について5名の教員から質問され、最後にネイティブの先生と簡単な日常会話を行いました。管理職との面接では、志望動機や教師像、英語学習の経験など教育に関する質問が中心でした。一方、理事長校長との面接では、人間性を問う内容が多く、仕事で大切にしていることや職場で苦手な人がいる場合の対応について聞かれました。母校の建学の精神を聞かれたことが印象的でした。模擬授業については、2 週間前に高校 1 年生の英語コミュニケーションの教科書が送られ、「難関大学を志望する生徒向けの20分の授業」という指示がありましたが、内容の自由度は高かったです。当日は教科書とパワーポイントを使い、英語科教員約 20 人を相手に授業を行いました。モニターを使用できたため、視覚的な補助も活用しました。

2. 教員採用試験対策について

地元の教員採用試験を受験しながら、私立学校の採用試験対策も並行して進めていました。公立試験では、3 回生の 12 月に行われた前倒し選考で教職・一般教養の試験を先に受験できたため、11 月には過去問 5 年分を 3 周して対策しました。高校で履修していない教科については新たに学習するのは難しいと判断し、得意教科を中心に取り組むことにしました。試験直前の 1 週間では、教職教養で 9 割、一般教養で 7 割を確実に取れるよう計画を立て、得意分野を落とさず、苦手分野でも半分は正答することを目標にしました。教職教養は過去問と同じような出題が多いため、分野ごとに問題を解きながらポイントを整理しました。一方、一般教養は過去問から復習できる範囲が限られていたため、出題傾向を把握した上で市販の教材を使い、基礎知識を復習しました。専門科目である英語では、難易度の高い語彙が出題される一方で、専門的な内容への配慮か内容理解の問題はそれほど難しくなかったため、特別な対策はしませんでした。（ゼミで英語論文を読むのが対策になっていたと思います。）私立高校から内定をいただいたため、公立の二次試験は受験しませんでした。

私立高校の採用試験対策では、学校の建学の精神や特色、設備などを詳しく調べ、どの点に魅力を感じたかを具体的に伝えられるよう準備しました。また、公立の試験のために整理していた教師像や育てたい生徒像が役立ち、人物重視の面接では、面接官との会話を楽しむ姿勢を大切にしました。面接に臨む際は、自分の教育観や大学で学んだことを軸にし、どんな質問にも「教師になりたい」という想いと、大学で学んだ英語教育の知識を踏まえて答えられるよう意識しました。想定外の質問もありましたが、しっかりした軸があったため、落ち着いて対応することができました。教育実習終了後の 7 月から 8 月にかけて、実習での経験を踏まえ自分の教師としての軸を明確にし、よく聞かれる質問への答えを整理しました。これにより、試験全体を通して一貫性を持った対応ができたと感じています。

3. おわりに

試験内容が自治体や学校ごとに異なるため、周りと対策すべきことが異なり、併願先に合わせて多くの準備が必要で戸惑うことがあるかもしれません。どの試験においても一番大切なのは「教師としての軸」をしっかり持つことだと思います。この軸があれば、想定外の質問にも対応でき、一貫性のある回答ができるため、試験官に「教師になりたい」という想いをしっかり伝えることができると思います。私自身、「なぜ教師になりたいのか」「教師として何をしたいのか」「自分には何ができるのか」を深く考えることで、軸を形成していきました。その過程で、自分が本当に教師になれるのかと不安に駆られ、苦しい時期もありました。しかし、教師を志したきっかけを振り返ったり、教職志望の友人に相談したりすることで乗り越えることができました。特に私立高校の試験では、学校ごとの特徴が大きく異なり、自分の軸と学校の教育方針が合っているかどうかが重視されているように感じました。この視点は、学校を選ぶ際の重要なポイントにもなります。自分の軸を明確にし、それを基に試験対策を進めることが、どの試験でも共通して重要だと思います。私立学校の試験内容は非常に多様で、私

合格体験記

文学部英文学科
U.S.

合 格 先：静岡県
校種・教科：中学校・英語科

1．受験した自治体・学校の試験内容について

一次試験(2024年 5 月 11 日)

〇筆記試験

① 教職教養・一般教養試験(60 分50点満点)

・一般教養が15問、教職教養が35問。

・一般教養は国社数理英に限らず、10科目全てから出る。内容は、理科だとガスバーナーの火のつけ方の手順を順番通りに並び替えたり、美術だと作者名と作品名を一致させたりする問題などである。

・また静岡県に関する問題が 2025 年採用の試験では1問出題された。

・教職教養は教育心理、教育法規など様々な問題から出題される。2025年採用試験では保健に関する事項が多い印象。ICT 関係の内容は例年通り出題された。

・近年教育問題として挙げられる、不登校やいじめ、自殺に関する内容も出題率が高い。

② 専門科目試験(80分)

・学習指導要領穴埋め問題(10 問)。2025年採用試験では、学習指導要領(平成29 年告示)の解説 外国語編の目標から出題された。語群あり。

・英語の試験も全て多肢選択形式であり、Writing をする箇所はなかった。当日、紙媒体の辞書(英和、和英辞書)は持ち込み可だった。試験内容は、英語で書かれた説明を元に適当な英単語を解答する問題(英英訳問題)やタイトルを解答する問題、長文問題があった。長文は3問で、雑誌の一部・インタビュー記事・近年の教育問題に関する内容で構成されていた。長文問題では内容に一致する選択肢を選ぶ問題があれば、穴埋めをする問題もあった。内容はとりわけ難しいというわけではないが、分量が多いうえ、情報量も多く、さらに3題長文が出題されるため、情報を整理しながら早く内容を理解することが求められる。

二次試験(2024年6月29日)

〇個人面接試験(各15分試験×2回、1回目と2回目で試験の部屋・面接官が変わる。各部屋試験官2人)

質問内容(1 回目と2回目で質問の重複あり)

1,どのようにして、ここ(試験会場)にきたのか。
2,今日何時に起きたのか。
3,なぜ静岡県を受けたのか。
4, 何を大切にして日々過ごしているか。
5, 教員不足と言われる中でどうして教員を目指すのか。
6, 保護者からわかりやすい授業は何かと尋ねられたらどう回答するか。
7,朝登校した生徒の表情が暗い。どう対応するか。
8, 生徒からほかの誰にも言わないという約束でいじめの相談をしてきたときどう対応するか。
9,生徒 A の保護者から、A と生徒 B を来年度クラスを離してほしいと相談があった。A は家で、B がいるから学校に行きたくないと言っている。教員としてどう対応するか。
10, 教員として大切にしなければならないことを〇〇力という形で答えて。
11, なぜ家でもできるのに学校で勉強しなければならないのか。
12, 安心・安全の学校はどんな学校か。
13, 自分の長所は何か。
14, (質問13に続いて)その長所を学校現場でどう生かすのか。
15, 教員の不祥事にSNSの問題が挙げられる。SNSの不祥事について、知っていることを述べて。

〇英語口頭試問(15分、試験官2人)

試験教室にある紙を見て、内容に沿って5分間で授業を構成する。その間メモを取ることができる。5分後、3分間で試験官に対し、英語で構想した授業を英語で説明する。その説明の際、紙を見ることができる。3分経過したら終了。

2. 教員採用試験対策について

本格的に試験対策を始めたのは、3年生の10月頃からです。教員養成サポート室主催の講座が3年次は火曜日の6限、4年次は月曜日・水曜日の6限にあったので、それと教職教養の暗記、過去問演習を主として始めました。教職教養は幅広いので、自分が受けようとしていた自治体の出題傾向を確認してから、出題率の高い問題から順番に覚え始めました。教職教養の暗記で使用した教材は、「教員採用試験 教職教養らくらくマスター 2025年度版」です。3年の10月以降、大学に行く日は毎日持ち歩き、空きコマや隙間時間、登下校中に勉強できるようにしていました。

過去問演習は、先に教職・一般教養から始めました。志望する自治体の過去問を最大5周行い、必要な教養と傾向を習得しました。過去問で穴埋めになっていたところは先ほどの教職教養の教材にしるしをつけ、それも覚えるようにしました。私自身、赤シートで隠し、書きながら覚えるのが得意なので、試験当日までその形式を貫きました。

教員養成サポート室の講座は、3年次は小論文とディスカッションがメインでした。その講座は3年次の10月から4年次の7月頃まで内容が変わりながらあったので、参加し続

けました。3年次の2月には集団討論、4年次には自己分析や個人面接練習、集団面接練習、自己PRの書き方、模擬授業練習会などあらゆる分野の講座がありました。

講座に参加し続けていく上で、次第に自分と同じように教員を志望する同志と顔見知りになり、友達になっていきました。特に、3年次の2月にあった集団討論の時が友達になるきっかけでした。同志の繋がりを大切にし、4年では、同志たちと博遠館108で共に勉強するようになりました。そこで共に気持ちを高め合いながら試験対策に臨みました。教員養成サポート室の森先生も週3日来ていたので、森先生の力も借りながら、仲間で試験に向かっていった形です。

4年生になってからは、個人面接の練習も何度も行いました。森先生に試験官役になってもらい、出される質問に1分以内で簡潔に答えることを意識しました。私自身、個人面接が苦手で焦ってしまう傾向があったので、何度も練習して苦手意識を取り除くようにしました。また、面接ノートを作るようにしました。質問に対し、どう回答するかを文字に起こしいつでも見ることができるようにしました。これは、試験対策の勉強をしている時だけではなく、登下校中の電車の中や試験直前に見ることができ、かなり効果的でした。質問に対する回答も考えていく中で精度を高めることができ、また試験直前はスマートフォンを見ることができないが紙は見ることができるのでオススメです。

3. おわりに

私自身、教師塾等に通ったわけではありませんが、大学の講座や過去問演習、基礎となる教職教養の習得と英語の勉強で何とか合格することができました。特に、同志との繋がりが1番大きかったと感じています。この繋がりがなかったら、孤独で試験に臨まないといけなかったので、精神的にかなり辛かっただろうと感じています。英文学科だと航空系の職に憧れる人が多く、新卒で教員を目指す人は多くないので、学科を越えて共に気持ちを高め合いながら夢に向かうことができたことが1番良かったと感じています。採用試験が終わってもその繋がりは続いており、現在4年次の12月ですが、教採お疲れ様会をしたり、修学旅行という名義で廃校で宿泊旅行をしたりしました。

同時に教員養成サポート室の森先生にもかなりお世話になりました。面接練習だけでなく、様々な相談に親身に寄り添ってくれたうえ、志望動機書の添削も何度もしてくださいました。これも合格となった1つの理由だと思います。

私は4年次の 5-6 月に教育実習があり、教員採用試験と完全に日にちがかぶってしまいました。精神的にも体力的にも疲弊するときがありましたが、「教員になったときの姿を思い続ける、思い描く理想の教師像を忘れない」ことを大切にしました。来年度はさらに採用試験の日程が早まると報道されています。また、各自治体によって試験の内容や傾向は全く異なるので、合格、合格後の教師像を思い浮かべ、できることから始めて頑張っていってください！森先生や仲間たちの繋がりを大切にしてください。

皆さんに良い結果が訪れることを心から願っています！

の受験経験もかなりイレギュラーなものであると感じていますが、どの試験でも自分の軸と強みを大切にして臨みました。また、大学の春休みは長いので、自分と向き合い、教師としての軸や自分の強みについてじっくり考える機会にすると良いと思います。さらに、私立学校は求人のタイミングが学校によって異なり、なかなか良い学校が見つからず焦ることもあるかもしれません。ただ、地域によっては秋に求人を出す学校もあるので、焦らずに準備を進めることが大切です。教科の知識を身につけながら、自分の軸を固める時間をしっかり確保して、備えながら待つことも重要だと感じました。

合格体験記

文学部国文学科
F.M.

合　格　先：関西大学北陽高等学校・中学校(常勤)
校種・教科：中高　国語

1．受験した自治体・学校の試験内容について

受験した自治体と私学
大阪府(不合格)、東京都(辞退)、関西大学第一(専任)(不合格)、
関大北陽(常勤)(合格)、常翔啓光学園(特任)(合格)

大阪府
1 次試験 6 月　筆記
　　教職教養 15 問+SPI 式の問題 15 問＊一般教養なし
2 次試験 7 月下旬～8 月上旬　模擬授業と面接(同日)、専門科目(別日)
　　模擬授業(約 4 分で黒板等使用不可)を行った後 15 分程度の面接(大阪　府の教育課題について詳しく聞かれた)
感想　　専門科目は校種によるが、国語は 6 割～7 割で合格基準に達していたため、面接にもっと時間を割くべきだった。面接には自信があり、周りからも受かると言われていたが点数開示の際に 3 割しか取れていなかったことがわかったため、来年度は面接練習に力を入れる。

東京都
1 次試験 7 月　筆記と専門科目と小論文
　　教職教養と SPI、東京都に関する問題が問われた専門科目の難易度は低め。
　　小論文は参考書で扱われるような無難な問題が問われた。※会場は近畿で選べる

2 次試験　会場が東京だったので、辞退した。

常翔啓光学園(特任)
書類審査　学校指定の履歴書に自己 pr や 1000 文字程度の志望動機を書く
1 次試験 9 月上旬　専門科目 60 分と小論文 60 分
難易度は大阪や東京の問題と同程度
2 次試験 9 月中旬　模擬授業と面接
黒板を使った模擬授業の後、校長や専門科目主任など合計 6 名ほどと　　面接。模擬授業の内容は、三つの課題を渡されて、そのうちの一つを選び、30 分程で授業展開を考えて授業をする形式。

関西大学第一(専任)
書類審査　同上
1 次試験 8 月下旬　専門科目 60 分×2 と小論文 60 分
専門科目は現代文 60 分、古典 60 分で、ほとんどが記述回答だったため難易度が高かった。小論文では、作文課題における生成 AI の対策についてがテーマであり、専門科目の小論文対策はしていなかったので少し難しかった。
2 次試験 8 月中旬　模擬授業と面接
1 次試験で落ちてしまったため詳細は分からないが、1 次試験後に全員に模擬授業の資料と要項が書かれたプリントが配られたので、準備期間をもって模擬授業に挑む形であることは分かった。

関西大学北陽高等学校・中学校(常勤)
書類審査　同上
1 次試験 9 月上旬　専門科目 60 分のみ
関西大学の入試問題と同じような形式で出題された。
2 次試験 9 月中旬　面接の後模擬授業
校長、教頭、学校内の主任など、五人ほどと面接。その後模擬授業。模擬授業は、走れメロスの最後の箇所に傍線が引かれており、その傍線部の回答と授業展開を別室で 30 分自分で考え、それを軸に授業をする形式。
3 次試験 9 月下旬　役員面接
関西大学の附属高校すべての校長先生と 2.30 分程度の面接。卒論について深く聞かれたことが印象的だった。

2. 教員採用試験対策について

対策を始めた時期

筆記試験の対策を始めたのは、3 年の夏頃で、ゆっくりと隙間時間などに教職教養の暗記をしていた。3 年の冬からは、教職教養と専門科目の過去問をたくさん解き、初めは 5～6 割程度しか取れなかったが本番 1 ヶ月前には 7～8 割で安定するようになった。

大阪府の対策をのみをずっとしていて、他の自治体や私立の対策は一切していなかったが、大阪府の対策が他の試験にも応用できたので、本命の自治体の対策を最後までやり抜くことをオススメする。

よかった点

・教職教養と SPI の対策をしっかりとできていた点。

・大学 1 年生の夏から大学卒業まで学生ボランティアや高校生の部活動指導員をして、ガクチカを作っていた点

・大学 1 年生から大学卒業まで塾講師として大学受験の国語を教えており、専門科目の対策に時間を取る必要があまりなく、他に時間を回せた点

反省点

・面接練習を直前 1 ヶ月前に始めた点。面接には自信があったため、適当に練習していたが、初めての面接本番で自分の引き出しが少ないことを痛感した。

3. おわりに

教師のブラック化が問題視されている中、それでも熱い気持ちで教師になりたいと思う人達が、年齢を問わずたくさん試験を受けます。つまり、教師不足だからといって試験をなめていると普通に落ちます。特に中高の倍率は校種によりますが、例年さほど変わっていません。倍率や教師不足などは考えず、ただあなたを含める熱い気持ちを持った多くの人達が試験を受けることだけを考え、その中で勝ち抜いてください。

合格体験記

文学部国文学科
F.M.

合 格 先：私立学校
校種・教科：高等学校・国語

1．受験した自治体・学校の試験内容について

私が受験した私立高校の採用選考は、筆記試験（90 分）と面接（15 分）でした。筆記試験は、国語と小論文を両方とも時間内に行うもので、国語は、大学入試レベルで記述問題もありました。小論文は、建学の精神と教育方針から自分がこの学校の教師になったら何をするか書くというものでした。面接では、志望動機や大学でしてきたことなど個人に関することと、建学の精神や教育方針など学校に関することを聞かれました。

2．教員採用試験対策について

国語は、大学入試の過去問を解いて対策しました。この教材をどのような力を育てるために、どのような授業をするのか、記述する問題が出ることもあるため、公立で同じような問題が出る自治体の過去問を探して、書けるように練習しました。

小論文は、教職教養と関連するものは、大学の教員採用試験対策講座で何度か書いていたため、同じような方法で対策しました。私立学校では、建学の精神に基づいてどのような教育を行うかを聞かれることが多かったため、受験前に学校のホームページで建学の精神と教育目標を確認するようにしていました。

面接は、とても苦手なので、とにかく笑顔で、明るい声で、相手の目を見て話すことを意識して行いました。よく聞かれる質問については、何を答えるか文章にして、ノートに書きました。家で声に出して読み、練習しました。キーワードのみを面接ノートに書くと、どのように話せば伝わるのか分からなくなってしまうことがあったため、一度文章にしてみるようにしました。

3．おわりに

公立の一次試験後に私立の願書を出し始め、一次試験の結果が発表されてから私立学校をいくつか受験しました。第一志望の公立は不合格でしたが、対策はそのまま私立学校でも活かせました。色々迷って、絞らずに受けたため、その学校について調べることができず、不合格になったところもあります。なぜこの学校で働きたいのかは答えられるように、学校の特色を調べておくと良いと思います。対策頑張りましょう！

合格体験記

文学部国文学科
K.R.

合　格　先：愛知県
校種・教科：高等学校国語科

1．受験した自治体・学校の試験内容について

〇一次試験
教職教養・一般教養・専門教養・小論文
〇二次試験
個人面接（15 分×二回）・場面指導（面接のどちらか一回で一題実施）

2．教員採用試験対策について

一次の筆記試験は、基本的に過去問演習を繰り返し取り組むことで対策していました。教職教養・一般教養は範囲が広いので、過去問の傾向を分析してよく出る分野から優先的に暗記していきました。専門教養は、過去問演習に加え特に重点的に対策したい分野については別途参考書を用意して対策していました。自分は古文の大学受験用の問題集を買って勉強していました。小論文も同様に過去問のいろいろなお題で実際に書いて練習し、何度か教員養成サポート室の先生に添削をお願いしたこともありました。

二次の面接試験対策では面接ノートを作っていました。過去問や問題集からよく聞かれる質問を選び、自分の答えを箇条書きでノートにまとめてそれをもとに回答を作って話す練習をしていました。そして採用試験を受験する友人たちや教員養成サポート室の先生と一緒に練習し、アドバイスをいただいていまいた。

対策の時期としては、自分の場合は三年生の夏休み明けくらいから勉強を始めました。卒論等も並行して進めていかなければならず、教採対策に割ける時間も限られていたので、早めからコツコツ取り組むことを心がけていました。また試験の時期は多くの人が教育実習等と被ることになると思いますし、今後さらに前倒しになるかもしれないという話も聞くので、できるだけ早めに始めて余裕を持って勉強するのが理想的だと思います。

3．おわりに

試験前は忙しくなるし、どんどん不安が大きくなっていってしまうと思いますが、しっかり教職という仕事と向き合って、覚悟と勇気を持って臨めばきっと良い結果に繋がると思います。困った時は遠慮せずに周りの方々の助けも借りましょう。皆さんと共に教育の世界で活躍できることを祈っています。頑張りましょう、応援しています。

合格体験記

文学部国文学科
M.H.

合 格 先：静岡県
校種・教科：高等学校 国語科

1．受験した自治体・学校の試験内容について

一次試験は、一般・教職教養(60 分マーク式)、専門教科(80 分筆記)、個人面接でした。一般教養は中学校程度の9教科から出題されます。概ね毎年大問1題15問です。教職教養は主に、教育法規、学習指導要領、教育時事(「令和の日本型教育の構築を目指して」「生徒指導提要」のような資料)、教育史や教育心理から出題されます。特に教育時事は、直近の答申や安全管理について、また人権教育について重点が置かれます。こちらは大問8題 35 問です。専門教科について、国語は大問 4 つで、評論文読解、古文読解、漢文読解、授業の構想を 300 文字以内で書く、という内容でした。授業構想以外は中堅国公立大学の受験問題のような形式で、各問題 2,3 問は 80 字以上の記述解答問題があります。古典分野は現代語訳、返り点、訓読も求められました。専門教科は静岡県でも中学校はマーク式のようなので、高校は筆記であるのもポイントだと思います。

個人面接は人によって時間が変わるようですが、私は 3 問しか聞かれず、体感としては 3 分程度で終わりました。3 人面接官がいて、一人は恐らく民間の方でした。

二次試験は、小論文、集団討議、個人面接でした。小論文は 60 分800字以内(オーバーしたら×)で、今年は「10 年後の自分の姿を想像し、それまでのキャリアプランを立てなさい」というテーマでした。静岡県では高校のみ課される試験です。集団討議は受験科目のバラバラな 6 人を1グループとして、30 分の話し合いで一つの意見を出す、というものでした。テーマは「未来の教育について」で、最初に 2 分間考えを用意されているメモ用紙に書き、一人ずつ 1 分間意見を述べてから自由討議になる流れでした。試験官は4 人いて、最初の説明はして下さりますが、討議が始まったら自分達で司会やタイムキーパーを決めて進めます。私は役割を持たず、フォロワーに回り、最初の一人一つ意見を述べるタイミングを含めて 3 回発言をしました。個人面接は、約 15 分間で、4 人の試験官がいました。4 人の方がそれぞれ 2,3 問質問をする形で、これまで自分が頑張ってきたことや、人間性、教育観、ケーススタディが問われます。

一次試験も二次試験も一日の日程でした。受験番号や教科によっては二日に渡ることもあるかもしれません。

2．教員採用試験対策について

3 回生の夏休み明けの秋の小論文対策講座から教採対策を始めました。講座で小論文を書くために、毎回の講義のテーマに沿った情報を教職の雑誌や文科省の資料を読

み集め、必要だと思ったところはルーズリーフにまとめる、ということをしていました。10～1月までは、学科のレポートやサークルが忙しく、講座対策で精一杯でした。年が明けてから、本格的に筆記の勉強を始めました。一般・教職教養について、まずは過去問を5周しようと決めて、過去問を解き、分からないところは答申を調べ、答えに関連する答申にも目を通す、ということを繰り返しました。国語については、1～2週間に一年分過去問を解き、自分の力を試しつつ、大学受験用の教材を買って解く、という対策をしました。意外と古文、漢文の記憶が薄れていたので、高校の時に使っていた古文単語帳や漢文句形の教材で暗記をしました。文章で書いて設問に答える、というのも解き方を思いだしておくと良いです。また、授業構想を書く問題について、教育実習もまだ行かないうちに試験が来てしまうという日程だったので模擬授業以外の授業経験が本当に0でした。そこで、国語の各教科(現代の国語、言語文化等)の授業案をインターネットで調べて、それを300字にまとめる練習をしました。年ごとに、「言語活動を明らかにして」や「評価方法を詳しく」等条件が異なるので、それぞれのパターンを考えて書く練習をしました。実際、試験で使うことができました。

面接対策について、過去問の質問で対策しておけば大丈夫、ということを聞いたので、過去問に載っている質問を全て Word で書き出して面接対策シートを作りました。私はアドリブで話すことが苦手だったので、各質問に対する答えも一つずつ Word で書き出しました。その上で、教員養成サポート室の森先生に何度も面接練習をお願いし、5月の一次試験の直前まで対策していただきました。面接対策シートを基に、別の角度からの質問や、派生して聞かれそうな質問をしていただき、自分の頭の中で瞬時に答える練習や、解答が長くなりすぎないような訓練をしていただきました。面接対策は人を頼るのが本当に効果的です。また、自治体の教育方針を徹底的に分析し、自分の解答に盛り込めるようにしておくとポイントが高いと思います。

集団討議について、冬の対策講座にすべて参加して友人と一緒に対策しました。討議で様々な立場を経験することで、話し合いの中で自分の得意な立ち回りを知ることができました。私はこの練習を通して、フォロワーに回り、議論が進むような質問を投げかけて討議に貢献する、という動きを狙うことにし、実際の試験でもそのような動きをすることができました。あとは相手の話を聞く姿勢が求められると思います。

3. おわりに

静岡県の2025年度採用試験は他の多くの自治体よりも日程が早く、周りの友達と異なるペースで勉強しなければならず、不安でいっぱいでした。それでも、教員養成サポート室に通い、教職仲間ができ、相談しながら勉強したこと、サポート室の森先生に何度も対策していただき、不安な気持ちも聞いていただけたことで最後まで頑張る事ができたと思います。心配事があれば気軽に周りの人達を頼ってみてください。「ここで先生になりたいんです！」という強い気持ちで臨み続けることが大切になると思います。同志社大学にはその気持ちを大切に、応援して下さる方がたくさんいます。この文章も皆さんの力になることができれば幸いです。努力が実を結ぶよう、祈っています！

合格体験記

文学部国文学科
N.S.

合 格 先：名古屋市教育委員会
校種・教科：中学校、高等学校国語

1．受験した自治体・学校の試験内容について

☆浜松市中学校国語（一次：5/11（筆記）,5/12（個人面接））（一次落ち）

一次の試験内容は一般教養試験、教科教養の試験、面接だった。会場は佐鳴台中学校か佐鳴台小学校に割り振り。最寄りのターミナル駅から会場方面に出るバスが増便され、教育委員会の方が交通整理を行っており段取りがしっかりされていると感じた。

一般教養の試験では、中学・高校レベルの学力テストの他に、最近の教育に関わる問題や法規・通知などの暗記が問われた。そのほか、静岡県内の有名なジオパークの場所など、いわゆる「ご当地」の問題も二問ほど出題があった。教科教養の試験は国語の問題だったが、共通テストの国語よりも体感的には平易だった。試験時間の半分が経過した時点で解き終わり、周囲の受験者もその少し後には解き終わっていたので、差は面接か一般教養で出たものと思われる。

不合格通知は、不合格者の中でのランクが A から C で表示される簡単な成績開示とともに送られてきた。

面接の内容としては、 三対一で、

・浜松市の志望理由
・併願先あるかどこか
・教員の志望理由
・大学生活で学んだことをどう活かすか
・教育実習は行ったか
・教員としての夢（授業力を上げる、そして遠い将来には管理職になりたいと言った）
・教育実習に向けての準備
・どのようにして高校での挫折を乗り越えたか、きっかけは
・池島の経験で何をしたか（個人的に教職の先生の過疎地の教育の研究に同行したのが池島）
・コミュニケーション能力がどう、と言っていたが、今の自分のコミュニケーション能力は自己評価でどうか（高校時代にはコミュニケーションができない生徒だったと言ったので）
・意見が食い違ったときどう対応してきたか
・不安だと思う時はどういう時か
・国語科をどうして選んだのか

・学級経営をどうしていきたいか
・ICT 活かしたいか、プランはあるか、
・いろんな経験をしているが、どう活かすか
・教員と生徒の SNS の交換についてどう思うか
・管理職になりたいと言っていたがなぜか
・福祉について勉強したと言っていたがどんなふうに？なぜ学ぼうと思った？

のようなことが聞かれたと記憶している。面接前に会場に集められ注意を受けた時からアットホームな雰囲気で、緊張感はとてもあったが、全体として受験者を歓迎するムードが感じられた。試験官もよく目を見て話を聴いてくださり、こちらの返答にリアクションを返してくださり、双方に笑いが起きた瞬間もあった。

☆名古屋市中学校、高校国語（中高併願）（一次：6/15、二次：7/21）
一次の試験内容は一般教養試験、教科教養の試験、論作文だった。会場は中京大学という私立大学だった。
一般教養の試験では、中学・高校レベルの学力テストはほぼなく、教職教養の、中でもここ三年以内に新しくなった法規や通知などの問題が多かった。教育心理や教育史の出題も、これまでにひきつづきなし。教科教養の試験は共通テストの国語と同じくらい。一般の受験者は講師経験者などが作文を書いている時間に空きがあり、自習をしていてよいと言われたが、会場では禁止されているスマートフォンを使っている受験者などルールの徹底は少し甘いと感じた。ここは担当者によって差があるので、直前に見直したいものは必ず紙媒体で持っていくべきだと思う。
論作文は「聴く」という単語から自身の教育への意識につなげ作文する問題だった。もともと文章を書くことに慣れており、予備校でも練習していたが、前年度に比べ書きやすいテーマだった。うまく書けたという手ごたえがあったこと以外詳細は忘れてしまったが、「聴く」「聞く」の違いを、「心を傾ける」か否かで説明しながら、生徒の話を「聴く」そして生徒同士も「聴き」あえる教室を作るには、のような論旨でまとめたことは覚えている。
二次試験は金城小学校で行われた。集団討議と個人面接があり、グループ分けがあった。
集団討議では、受験者三名、試験官二名で、「クラスでの体育祭の出し物を何にするか討議している途中に、いつも活発に意見を表明する生徒が急に様子がおかしくなり、涙を流しました。原因として、何が考えられますか」で二、三分、その結果について、「その生徒が出した意見が周りに否定され、それで涙を流していたことが分かりました。クラス向けと、その生徒向けにどうアプローチするか話し合ってください」で七分、最後に、「制服を廃止するかこのままにするかという討議をクラスで行い、結果を生徒会に提出することになりました。話し合いの中盤でクラス全体に向けて話をするとしたら、どう話しますか。一分ほどで実演してください」というものだった。先二つの話し合いの内容を活かそうとしたものの、とっさのことでは難しかったが、よく話せたと思う。同グループの受験者二人

もよく話せていた。
個人面接では、二対一で、
・名前
・名古屋市が私を採用するメリット
・志望動機
・夜間定時制や第一希望（高校と書いていた）と違う配属でも構わないか
・出身高校について（名古屋市出身なので）の確認
・教育実習の感想
・制服についてどう思うか
・体罰についてどう思うか
・「あなたのクラスの生徒が風邪をひいてこじらせ、一週間ほど休むことになった、担任としてどのような対応を取るか」述べよ

のようなことが聞かれたと記憶している。浜松よりも、全体として受験者を歓迎するムードは少なかったが、案内をしてくださった職員の方々は事務的ながらも親切に質問に答えてくださった。試験官もよく目を見て話を聴いてくださったし、追加質問というよりはお喋りの延長のような問いかけもありリラックスして答えられた。
去年の試験の受験経験者によると、試験官によってかなり質問内容に差があるらしい。その人は二度目の受験だったが、今回、私は教育一般の問題や自分のことを訊かれたのに対し、その人は名古屋市の教育施策を説明させるような質問ばかり受けたという。

2. 教員採用試験対策について

もともと大学受験の時にも過去問をろくにやらなかったという悪癖があり、雰囲気にのまれるように予備校を比較し通信講座（紙面提出式）と対面講座（名古屋での通塾）に手を出したが、過去問を見て、特に一般教養の講座は取らなくてもよかったことに後から気づいた。浜松の一般教養の学力テストもそう難しくなかったので、講座受講で特に金銭的な負担があるものに関してはまず過去問を見て傾向を判断してから、受講するべきか判断すべきだったと後悔している。しかし、勉強したことは糧になってはいる。
名古屋市は特に面接や小論文や教職教養に特色があったことと、自分自身国語の教員になるということで今後の指導の参考としても、特に小論文に関しては予備校に通ってよかったと感じている。毎週一度、多い時には二度帰省して通塾していたが、無駄だったとは思わなかった。
集団面接、個人面接は、教員養成サポート室にこもり、友人たちと日程調整して、学内での講座以外でも練習した。志望自治体の教育目標の分析などは、比較して初めてその自治体の特色が分かることがあったり、人の面接の練習を聴いてアドバイスしたりよいところを取り入れたりするチャンスがあったり、何より人と予定を共有することでさぼらずに対策が出来たりと、人と一緒に勉強するメリットをふんだんに活かす形で取り組んだ。森先生だけではなく、森先生の講座に訪れる学生に積極的に声をかけ、情報共有や、教

育実習での悩み相談、そして今後教員になった時の意見交換ができるグループを作成したいと思ったのが初めだったが、本当に良い仲間を得ることができたと思う。

3. おわりに

教員採用試験は、受かりやすくなったとはいえ、自治体によっては講師経験者重視のところがあるなど、まだ難しい試験ではないと言える状況ではないと思います。

三、四年生は大学に来る機会も減り、助け合おうと思ってもなかなか相手を見つけられないことがあるので、今の時点でできた繋がりを大事にしつつ、教員志望の学生には積極的に声をかけて情報共有しあって、互いに自らが人の役に立っている感覚を味わうことも、勉強を続けるうえで不可欠な栄養分だと思います。是非周りの人と協力して勉強してください。

面接では、自分の経験を教育活動にどう活用するか、あるいは、どのように活用するか目的や意識をもって経験をしてきたか、ということや、生徒や保護者の立場に寄り添おうとしている態度があるか、ということが、私が評価いただいたポイントだったと思います。

一見教育とはかかわりのない事柄も、皆さんがある問題が起こったときにどう考えアプローチしていくか、その態度に影響していると思います。あるいは、皆さんが全く意識していないところで、皆さんの教育観が、皆さんの生活態度に表れていることもあるでしょう。

皆さんのすべてを生徒に還元しようとしたら、皆さんのどんな気持ち、どんな思い出が、皆さんの理想の教員像の中の不可欠な要素になっているのでしょうか？それを知るために、面接練習や論作文対策を使いながら、とことん自分を掘り下げていくとよいと思います。それにはきっとしんどい作業もあるでしょう。面接会場で初めて自分の真意に自分で気づくと、たぶん感極まって面接どころではなくなると思います。本番で感極まって泣かないためにも、人にたくさん話して練習しておくとよいと思います。練習の間の失敗はすべて本番の成功への助走ですよ！

最後に。教採を受ける前も、そして合格をいただいたのちも進路に迷い続けていた私が、就活の時にお世話になった先輩から教えていただいた「決めの問題」という概念を紹介しておきます。これは、「どちらの道を選ぶべきかくよくよ迷い続けるより、一つに決めてしまって、その道を精巧につなげるための努力をした方が、最終的な成功確率や後悔しないで済む確率は上がる」というものです。やるかやらないかで迷ったらやってみる（逆もアリだと思います）等、自分にかかる「選択のストレス」をちいさくする指針を持っておくといいと思います。

最終的にどうなろうと、何を選ぼうと、それを迷った経験、失敗や成功を感じた経験そのものが、皆さんが将来活躍される際の血肉となって活きてくる、そう思っています。

かくいう私も、来年度以降どうなっているか、どう感じているかは未知のことですが、一足先に、日本の教育を支える一員としてお待ちしています（というより、日本の教育を支えられる一員に、早くなりたいなと思いつつ、新任の頃は足もとから着実に積んでいくばかりになりそうですが）。

後輩のお役に立てるように、森先生にも何かの際にはお取次ぎをとお願いしてあるので、何かあればお気軽にご相談くださいね。

合格体験記

文学部国文学科
N.N.

合 格 先：私立学校
校種・教科：中高・国語科

1．受験した自治体・学校の試験内容について

私は、私立学校を 3 校受験しました。今回は、内定をいただいた学校をメインに、他の学校についても少し書こうと思います。

内定をいただいた学校は、書類選考はなく、書類を送れば誰でも1次試験を受けることができ、1次試験は、教科に関する試験と、小論文、面接の3つでした。教科に関する試験は、教育に関する説明的文章と源氏物語から出題されました。小論文のテーマは、「あなたの理想の教員像」だったと記憶しています。また、面接はグループ面接で、初めにこの学校について知っていることが聞かれ、2問目もそれに付随する質問でした。他の受けた学校でも、その学校については必ず質問をされたので、私立を受ける際には、学校の HP やパンフレット、公式の SNS などがあればそれも見ておくと良いと思います。なぜ公立ではなく私立を選んだのかも、よく聞かれた質問でした。私が私立で働きたいとおもったきっかけは、3年次で履修したスクールインターンシップがきっかけでした。私は私立にしか通ったことがなかったので、スクールインターンシップで初めて公立に足を踏み入れて、私立と公立の違いを間近で感じることができ、それぞれの利点と欠点を知ることができました。私は、学校全体が一つの教育理念に基づいて教育をしている私立学校の在り方のほうが馴染みやすいと感じたので私立学校を選びましたが、いろいろな考えの教員がいるからこそ、様々な生徒に対応できるというのももちろん公立の利点だと思います。

2次試験は、口頭試問のみで、教科に関する面接と、校長・教頭との面接の2部構成でした。教科に関する面接では、国語が苦手な生徒にたいしてどうアプローチするかがメインに問われました。他の学校では、学習指導要領の改訂についてどう思うかなども聞かれました。校長・教頭との面接では、キリスト教教育の意義や、平和教育について、部活動についてどう考えるかなど、学校の教育理念に関することや、長所と短所など私自身に関することも聞かれました。私は短所を聞かれた時に、打たれ弱いところだが、それも自分の伸び代だと前向きに捉えるようにしていると答えたところ、校長先生から、ではまだまだ伸び代がある方ということですね。と問われ、はい！と即答をしたのが、成長意欲も見せられてよかったのかなと勝手に思っています。

他の 2 校では、1次選考として書類審査があり、その後の 2 次選考の中で、模擬授業がありました。それぞれ事前に教材は知らされていて、50 分の指導案を作成していくという形でした。模擬授業の雰囲気は全く異なっていて、1校目は、校長、教頭、教科主任の3名だけ

だったのが、2校目は17名の先生方の前で授業をするということで非常に緊張をしました。模擬授業終わりには、今回の授業は何点だったか。どうすれば 100 点になると思うかなどを聞かれました。

2. 教員採用試験対策について

私は、4年次の7月まで大学院に進学しようと考えていました。大学院では教育に関する研究がしたいと思っていたのですが、研究計画書を書く中でそもそも教育現場を知らないのに、今大学院に行く必要があるのか疑問に思い、教員として働く中で大学院での学びが必要だと思ったら再び戻ってこようと決断をしたのが、7月半ばごろでした。

教員採用試験の対策などは全くしていなかったので、京都府で講師登録をしようと考えたのですが、7月ごろはまだ私立学校の募集が出ていたので、少しの希望にかけて応募をすることにしました。

結果、3 校受けて 2 校で内定をいただきました。（1つは専任で1つは常勤です）なぜ、何の対策もしていなかった私が内定をもらうことができたのか。それは、自分の強みを理解し、それに合う学校しか応募しなかったからだと思います。

私の強みは、キリスト教教育に理解があるということでした。幼稚園から大学までキリスト教主義学校に通っており、宗教科の教員免許も取得見込みだったため、キリスト教教育に理解があるというのは、誰の目から見ても明白だったと思います。

キリスト教主義学校の募集要項には必ずといっていいほど、「クリスチャンもしくは、キリスト教教育に理解がある者」とかかれているので、そこに当てはまっているというのは大きかったのではないかと思います。

3. おわりに

教員採用試験というと、もっと努力をしなければならないものだと思います。正直、大学院進学をやめようと決意した時、なんの経験も知識もない私が今から私立なんて受かるわけがないと思いました。そんな時に、「講師登録までは、まだ期間があるから、その間に私立を受けてみても良いのではないか」とアドバイスをしてくださった森先生にはとても感謝しています。その後も、応募した学校の採用試験が教育実習期間とかぶっていて、試験の対策も何もできていないし、どうせ受からないからもう行くのをやめようと思ったこともありました。そう言った私に「私立学校の採用は縁だから行きなさい」と教育実習の指導教員の先生が背中を押してくださいました。この2人の言葉がなければ、私は今合格体験記を書いていないと思います。

他の方々と違って、勉強会にも参加していないし、たくさん努力をして合格したみなさんの体験記の中に、こんな体験記が混じっていて良いのかと思っています。でも、私と同じように、直前になってやっぱり教員になりたいと思った人にこの体験記が届いて、少しでも希望になれば嬉しいです。

合格体験記

自分に合った戦略で

文学部国文学科
O.H.

合 格 先： 京都市、香川県
校種・教科： 中学校・国語

1．受験した自治体・学校の試験内容について

香川県は大学から推薦をいただいていたので一次試験は免除、二次試験からの受験でした。二次試験の模擬授業は会場で課題を渡されて 15 分間で授業内容を考え、10 分間模擬授業を行うという形式でした。事前の対策については後述しますが、とにかく本番で大切なのは実演する 10 分間だけでなく授業全体のゴールを想像しておくことと、生徒の方を見て大きな声で授業をすることだと思います。経験も浅い大学生がその場で授業を作るのだから内容に自信がないのはみんな同じです。自分なりのビジョンを持って堂々とした態度で授業に臨めるかどうかが重要な気がしています。

京都の一次試験、専門教科は大問 4 つを1時間で解かなければいけません。字数の多い記述問題もあり、難易度はそこまで高くありませんが全て埋めようと思うと時間配分が難しい構成になっています。私は比較的得意な古文漢文を先に解いて次に説明文を解き、物語文は一番大きな 120 字の記述をひとつ捨てましたが結果は合格でした。時間がないからといって焦らず、自分の得意に合わせて何から手をつけるか選択する能力が必要になってくると思います。面接では最後に「入学式の後、クラスの顔合わせでする挨拶をしてください。」と実演を指示されました。前年に採用試験を受けた先輩からは「考える時間が少しいただける」という話を聞いていたのですが、私の場合は質問されてすぐ実演という形式でした。年度や面接官によって細かな違いは当然あると思うので、聞いた情報から「必ずこうだろう」と思い込みすぎないことも大切です。二次試験の模擬授業は事前に課題を渡され、準備して本番に臨めるのでその点では比較的安心です。

2．教員採用試験対策について

教職をとっている仲間たちを見るに、教員採用試験を受ける方は本当に真面目で、きっと後輩の皆さんも「あれもこれもやらなきゃ」と焦っているのではないかなと思います。そこでまずは私が採用試験を受ける中で個人的に「やらなくてもいいな」と感じたことをお伝えします。やることが沢山でいっぱいいっぱいの人は、今からお話しすることを少し削ってみてもいいかもしれません。

私が「やらなくてもいい」と感じたことは、面接の予想質問に対する答えを決めて暗記することです。私も最初のうちは採用試験対策の先生から勧められてノートに予想質問のプリン

トを貼り、一つずつ答えを書いていましたが、ノートに書いて暗記してしまうと面接本番でどうも通り一遍のわざとらしい答えになってしまうと感じ、まとめノートは途中で作ることをやめました。面接で聞かれたことにすかさず答えられるなんて「その質問が来ると思って台本を考えておきました！」と言っているようなものです。(ほとんどの方がそうなので別にマイナスイメージではありませんが。) 本当の自分の思いを伝えるのに少々考える時間があったって責められることはありませんから、一言一句ノートに台本を作るのではなく「こんな質問が来たらこういう内容を話そうかな。」と頭の中で想像しておくだけで対策としては十分かと思います。

次に、「特に時間をかけるべき」と感じた対策について2つお話しします。

1つ目は「志望自治体のリサーチ」です。これは早いうちからできる対策です。自治体によっては大学からの推薦を受け付けていたり、持っている資格に応じて加点されたりといった制度があるのでホームページを定期的に確認し、自分の力が発揮できる制度はないか調べると良いと思います。また、各自治体の専門教科、一般教養、教職教養の配点バランスも重要な情報です。私は専門教科の配点が大きい京都市を受験したので、大学の専門的な授業での学びを特に大切にしていました。

2つ目は「模擬授業の対策」です。私の場合教育実習が9月だったので、採用試験前に授業を練習できる場は大学の教科教育法での模擬授業だけでした。そこで私は実習を経験した上で採用試験を受けている方との経験の差を埋めるために、中学校 3 年分の教科書を確認し、すべての単元の授業を作りました。と言っても時間がないので指導案を書く訳ではなく「この単元では、何の力をつけさせるために、どんな活動をするか」をそれぞれ考え、迷ったときは教員向けの指導書を参考にしながらノートにキーワードをまとめていました。特に板書をメモしておくと、生徒に必ず伝えたい内容を絞ることができるのでおすすめです。この方法は、香川県のように試験会場で模擬授業を計画しなければならないタイプの自治体を志望している人には一番有効な対策なのではないかと思います。事前に指導案を準備していくタイプの自治体、例えば今年の京都市では「学習指導要領に分類される〇〇の力を伸ばす教材を自分で選んで授業しなさい」といった指定があったので、教員向けの指導書のうち単元ごとにつけられる力が書かれたものを参考にしながら目的に合った単元を選び、自分なりのオリジナリティーを加えた指導案を作成しました。こちらはひとつの単元に集中できるし練習もできるので比較的自信を持って試験に臨めるのではないかと思います。不安であれば教職の仲間や先生に授業を見てもらうことも自信に繋がります。

3. おわりに

教員採用試験を受ける後輩の皆さん、ここまで来るのに大変だったこと、それぞれあると思います。学年が上がるごとに教職の仲間は減っていくし、教職を続けてはいるけれど採用試験は受けず就活をしている友達もいて、心細さを感じているかもしれませんが、最後まで粘り強く頑張った自分の力を信じて頑張ってください。採用試験対策は自分の能力と自治体の特性に合わせた戦略が命！学んできたことや自分の魅力が存分に出せる、悔いのない受験になるよう祈っています。

合格体験記

文学部国文学科
S.T.

合 格 先：大阪府
校種・教科：高等学校・国語科

1．受験した自治体・学校の試験内容について

〇1 次試験：筆記試験（教職教養＋一般教養 90 分）
・教職教養（15 問）
　教職教養は、過去問の傾向とほとんど変わりありませんでした。教育法規の穴埋め問題や正誤問題、最近の時事問題等、すべて選択問題でした。

・一般教養（15 問）
　一般教養は、例年 SPI と言われるものと似ている問題が出題されています。今年は、数学系の問題が難しいと思いました。こちらもすべて選択問題でした。

　教職教養を先に素早く倒してしまえば、数的処理などの手間のかかる一般教養にたっぷりと時間をかけられます。問題冊子は、見開きのものとなっていて見やすく、計算するスペースも十分に確保されたものでした。

〇2 次試験：筆記試験（専門教養 90 分）、個人面接（約 20 分）
・筆記試験
　例年と同じく、初めに学習指導要領からの出題があり、選択問題の大問が2つ（評論文・古文）、記述問題も含めた大問が2つ（漢文・評論文）出題されました。新学習指導要領に則った出題を意識しているのか、記述を含めた最後の大問も評論文からの出題でした。

　問題文はそれほど難解ではありませんが、問題用紙が右上をホチキス留めした両面プリントだったので、1 次試験以上に読みにくく、解答しながらめくるのに苦労しました。

・個人面接
　面接官は 3 人で、オーソドックスな質問が多かったように思います（志望理由や大阪府の教育課題等）。そして、どの回答にも 2、3 の追加質問が行われ、深く問われました。
　また、個人面接は、最初に4分 30 秒という短い時間で行う模擬授業から始まりました。

扱う領域は、I 次試験の合格者発表日前後にネット掲載され、学習指導要領から指定されました。本番は、A4 のメモ I 枚なら持ち込み可能でした。

加えて、I 次試験合格者には、面接個表が PDF で配布され、その記入事項をもとに面接試験が行われました。面接個表に書かなければならなかったことは、「志望動機」「これまで取り組んできたことについて」「ボランティア・クラブ活動等の経験について」「自己 PR」の 4 つでした。記入内容はそれぞれの選考区分で指定されていました（講師経験者は学校での取り組みについて記入する等）。

〔質問内容〕

・今の模擬授業の出来はどうだったか。
・模擬授業のためにどんな準備をしたか。
・アドバイザーの方にはどんな注意をされたのか。
・志望動機
・大阪府の教育課題は何か。
・その解決方法は何か。
・自分にできる解決方法は何か。
・サークルや部活で学んだことは何か。
・その学びを教員になったときにどのように活かすか。
・ストレスの解消法は何か。
・教育現場でのストレスはどのように解消するのか。
・教員になるうえで今の自分に足りていないと思うものは何か。
・自他尊重の姿勢とは具体的に何か。

2. 教員採用試験対策について

同じ志を持つ仲間と顔見知りになるという意味で、大学の対策講座はとても有意義なものでした。そこで知り合った仲間と日程を合わせて面接練習をしたり、意見交換をしたりすることは、とても勉強になりました。大阪府の高等学校では、小論文や集団討論は課せられませんが、面接時のネタを増やすことにもなるので、対策講座に参加する意義は十分にあったと思います。

また、アドバイザーの方にもたくさんお世話になりました。博遠館の教員養成サポート室には多くの資料もあるので、4 回生になってからは頻繁に訪れました。

〔スケジュール〕

3 回生夏休み：過去問を見て傾向と対策を練る
全国の過去問題集で演習
秋学期：教職教養の参考書を読み始める
大学の対策講座（小論文）

３回生春休み：大阪府の過去問を解き始める
大学の対策講座（集団討論）
教職教養の問題演習
４回生春学期：面接ノート作成
大学の対策講座（面接、集団討論等）
アドバイザーの方との面談、面接練習
筆記試験の過去問、問題演習（大阪府、全国）
模擬授業練習会に参加

〔使用した参考書等〕
専門教養：『全国まるごと 過去問題集 国語科』（協同出版 一昨年度と昨年度の２冊）
大学受験用の参考書や単語帳、他の自治体の過去問等
教職教養：『TwinBooks 完成シリーズ 要点理解・演習問題』（時事通信社）
大学の対策講座でいただいた問題演習プリント
一般教養：大阪府の過去問を繰り返し解答して慣れる
自分が苦手だと感じる分野の参考書

3. おわりに

教員採用試験の日程は、早期化しているとはいえ大半が 5～6 月であり、合格者発表にいたっては早くても８月末です。自分の周りの４回生たちは、３回生の段階で内定が決まっている人もいるなかで、ただ試験を受けて結果を待ち続けることは、就職活動をまったくしていなかった自分にとって、とても苦しいものでした。

しかし、その中でも、これまで必死に準備を進めてきた自分の過去の努力だけは信じられると思っていました。「これだけ準備して不合格なら後悔はない」と思える自分と、「それでも落ちたらどうしようか」と不安になる自分が存在して、情緒不安定にもなりました。

結果、私は合格をいただけましたが、それは「縁」があったからだと思っています。もちろん、合格を勝ち取るために必死に努力をしたことは事実であり、胸を張ってそう言うことができます。しかし、準備の段階から、「縁があれば合格をいただけるだろう」という楽天的な思考を持っていたのも事実です。このなんとも言えない「あんばい」は、人生をよりよく生きていくうえで大切なのではないかと強く感じています。

「何かに向かって邁進することが大切なのであり、夢はただの付随物である」と、ある人が言っていたのを思い出します。結果がついてこなくても、それまでの努力が無駄になることは決してないと思います。4 月から教員生活がスタートしても、この言葉を自分の基盤として、学び続ける教員になりたいと思います。

長くなりましたが、これから教員採用試験を受験しようと考えている方の一助となればとても嬉しく思います。ありがとうございました。

合格体験記

文化情報学部 文化情報学科
I.K.

合 格 先：茨城県
校種・教科：高等学校・地理

1．受験した自治体・学校の試験内容について

1次試験は、教職教養と専門科目の構成であり、一般教養は無かった。どちらも全てマーク形式になっていた。教職教養の難易度がかなり低く、出題された範囲も限られていた。高得点が取れやすいが、周りの受験生も同様なので、教職教養で差がつくことはあまりないと感じた。専門科目も特別難易度が高いという訳ではないが、教職教養と比べると配点も高いためこちらで差が付くと考える。確実に一問一問正解することが重要であると感じた。

2 次試験は、模擬授業と個人面接であった。模擬授業をする範囲は自由であったが、テーマが定められていた。時間は10分で黒板とチョークの貸し出しがあった。試験官は3人で模擬授業後に簡単な口頭試問(この範囲を選んだ理由や工夫したところ等)があった。個人面接は、最初に3分で自己 PR と志望動機を聞かれた。出願をした際に記載した自己 PR や志望動機、趣味などに基づいて質問を受けた。また、働き方改革についてどう考えるかと働き方改革を行うために具体的な解決策を聞かれ、今の教育の現状を知り、自分の考えを持っておくべきだと考える。

2．教員採用試験対策について

3年生の夏から秋ごろにかけて勉強を開始した。問題集と過去問を何回も周回し、自分の苦手な分野を参考書等で勉強をした。YouTube で解説動画を歴史だと時代ごとに視聴し、時の流れを頭にいれた。新聞やテレビでの教育に関するニュースにアンテナを張り、教育時事対策をしていた。

冬休み、春休み等の長期休みでやるかやらないかでは大きく違うと思ったため1日8時間を目標に勉強をした。午前中に YouTube での学習をし、午後から図書館に行き勉強をするという自分の中の生活リズムがあった。

反省点として、勉強を始めた当初、どこから手をつけて良いのか分からず、戸惑っていた時期があったので、もったいないと今では感じる。

3. おわりに

これから教員を目指す皆さんへ。教員採用試験の出題範囲は非常に広く、膨大な量です。そのため、早期に計画的に勉強を始め、地道に努力を続けることが大切です。勉強中心の生活になると、遊ぶ時間も減り、どうしても楽しさが感じにくくなるかもしれませんが、どんなに苦しくてもやるべきことはやらなければなりません。この時期は自分に厳しく、最後まで気を抜かずに努力を続けてください。

合格体験記

文学研究科文化史学専攻
I.T.

合 格 先：京都府
校種・教科：高等学校 地歴公民

1．受験した自治体・学校の試験内容について

一次試験は２日に分かれており、筆記試験の日と面接試験の日があった。時期としては６月半ばから後半にかけての時期だった。筆記試験は、小論文、教職教養、科目の専門試験の三つであった。面接試験は10分程度で、面接官は２人だった。

二次試験は八月半ばで、面接、模擬授業、模擬授業の講評から成っていた。私は面接→模擬授業→模擬授業の講評の順だったが、人によっては最後に面接が来た人もいたようだ。面接は20分程度で、面接官は三人だった。ここでは公務員としての服務規定についてや、教育実習等での経験についてなどが聞かれた。他の自治体の最終面接であるような場面指導は少ない印象を受けた。

模擬授業は10分間で、生徒役を他の受験者が行う。テーマは、地歴公民の場合は、各科目から１テーマずつ事前に提示される。そして、選んだテーマで当日に授業の導入10分をする。生徒役の受験者は４名おり、その４名の模擬授業は生徒役として見ることとなる。生徒に対して質問を投げかけたり、指名して答えさせたりすることはできるが、生徒役が勝手に発言することは認められていなかった。全員の授業が終わると、模擬授業の講評に移る。

模擬授業の講評は１人ずつ、模擬授業を見ていた２人の面接官を相手に行う。ここでは自分で「自分の模擬授業に点数をつけるとすれば何点か？」とか「どういったことに注意して模擬授業を作ったのか？」、さらには「なぜこのテーマを選んだのか」といった質問がなされた。

2．教員採用試験対策について

教員採用試験を受けるのは今年で３回目だった（学部４年と修士１年の際にも受験した）が、京都府を受けたのは初めてだった。学部４年の時と同様に、教員養成サポート室の「教員採用試験対策講座」に春休み実施のものから参加した。また、教員養成サポート室の資料室に出入りし、対策講座で知り合った仲間と情報交換したり、面接の想定問答を一緒に作ったりした。私は過去２年の教員採用試験の経験から、面接が苦手であることを認識しており、教員養成アドバイザーの先生に、面接の質問の意図や、どう答えるべきかといったことを丁寧に教えていただいた。

しかしながら、筆記試験の対策は十分にできていなかった。教職教養は学部 4 年のときに覚えたことを、最新のテキストで思い出す程度の対策しかできていなかったし、専門試験に関してはほとんど対策できていなかった。小論文も、1、2回程度練習で書いたぐらいであり、しっかりとした対策はできていなかった。ただ、小論文に関しては、普段読んでいた教育に関連するトピックの新書やブックレットが非常に役立った。こういったものを読んでおくと、意外と役に立つことがあるとも思う。

大学院生の場合は、自身の研究が教育の現場でどのように活かせるかを考えることも重要であると思う。私の場合、直接活かせることはあまりなかったが、研究の視点に活かせるところがあったため、そこをアピールした。自身の研究内容が直接活かせなさそうな人は、研究の視点や枠組み、その研究をする上で鍛えられた能力などについて考えると良いかもしれない。

3. おわりに

教員採用試験は対策なしに合格することはありませんが、しっかり対策したからといって必ずしも通るとも限りません。運の要素も実際のところは大きいと思います。一つの自治体で何回か落ちたとしても、私みたいに自治体を変えたらあっさりと通るということもあります。大切なのは、諦めない気持ちだと思います。決して諦めずに、今できることをできる範囲で頑張っていきましょう。応援しています。

合格体験記

経済学部経済学科
M.R.

合 格 先： 京都市
校種・教科： 小学校

1．受験した自治体・学校の試験内容について

・一次試験：①筆記試験(6/15)
②個人面接(6/16、22、23 のうち該当する日)

・二次試験：③集団討論、④小論文(8/17)
⑤模擬授業(8/18)

①私は同志社大学での大学推薦制度を利用し、受験をさせていただいたので、一次試験の筆記試験が免除になりました。毎年 4 月ごろに同志社大学のキャリアセンターのホームページに大学推薦の情報(どこの自治体の推薦があるかなど)が公開されるので、こまめにチェックしておくと良いです。学内選考などがあり、推薦をいただけたら、5 月初めごろに書類を作成し出願するという形になります。

②個人面接：面接官 2 人@京都市総合教育センター

京都市を志望した理由や、令和の日本型教育などについてどのように捉えているのかなど、追加質問も合わせて 10 問程度ありました。(体感では質問数が多いなという印象でした。)また、どのような学級経営をしたいか、先輩教師が体罰をしているところを見かけたらどのように対応するか、担当のクラスに不登校の子どもがいたときの対応なども聞かれました。予想外の質問内容として「あなたが考える風通しの良い職場とはどのようなものですか」ということが聞かれましたが、京都市教育委員会が出している学校教育の重点や、資料を読んでいるとしっかりと対応できると思います。面接の最後には「担任をしている小学 4 年生のクラスで喧嘩が起こった後のクラスに全体に対する指導(特に友達の大切さについて)」というテーマで 1 分間の場面指導がありました。

③集団討論：面接官 2 人、受験者 8 人@同志社大学新町キャンパス

テーマ「京都市では、「KYOTO×教育 DX ビジョン」のもと、すべての子どもが自分らしく学び、可能性を最大限発揮できる教育を目指し、あらゆる学習場面で一人一台端末をはじめとする ICT を積極的に活用し、学びの充実に取り組んでいます。そこで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的な充実を図るために、どのように ICT を効果的に活用していくのか議論を深めなさい。」

④小論文@同志社大学新町キャンパス
テーマ①「学習障害(LD)のある子どもが主体的に学習に取り組むことができるようになるには、どのようにすればよいか、具体策を述べなさい」
⑤模擬授業　面接官 2 人、8 分間@同志社大学新町キャンパス
小学3年生理科「太陽と地面の様子」についての単元の第 2 時間目(指定あり)
事前に各自で作成した指導案を提出し(一次試験合否の公開と同時に模擬授業の情報が公開されます)、その中で該当する時間の 8 分間の模擬授業を行った後に、口頭試問として 4 問ほど質問があった。

2. 教員採用試験対策について

3 回生の秋学期から始まる教員採用試験対策講座に積極的に参加し、小論文や集団討論の対策を行っていました。面接は教員採用試験を受ける友達を巻き込みながら、実際に声に出してみるということを大切に練習していました。面接ノートを作ったり、Word にキーワードとなるものを実際に文字おこししたりして練習すると良いと思います。小論文は京都市では毎年、京都市で作成される「京都市教育の重点」から出題されることが多かったので、しっかりと読み込み、各ポイントについて、自分自身の考えと具体的な対策や案を書けるように対策していました。小論文や集団討論、面接に共通して言えることですが、多くの視点から物事を考えることができるようになることが大切でだと思うので、中央教育審議会が出している答申や文部科学省が出している資料、京都市教育委員会が出している資料などを読み漁ることを大切にしました。模擬授業に関しては、京都市では事前に授業する単元が公開されるので、指導案を作成し、実際に黒板を使って授業練習の数をこなすということをしていました。

3. おわりに

小学校でのボランティア活動など実際に学校現場を目にすることで、面接や小論文、集団討論などに生かせることが増えると思います。少しでも良いので積極的に参加するなど様々な経験をしておくと良いと思います。現場で働く先生と接する機会も増え、様々なアドバイスをもらえたりすることもあるので、よい機会になると思います。

試験当日は、とにかく、笑顔を大切に、「小学校教員になるんだ」という思いで頑張りました。笑顔を大切にしているとどこからか自身もあふれてくると思います。二次試験は例年、同志社大学の新町キャンパスで行われるので、安心感をもって取り組むことができました。大学に行ったときは下見をしておくことをお勧めします。(試験前になるとお盆休みや試験準備期間がありなかなか学内に入ることができません。)

試験に合格したいという気持ちよりかは、教員になったらこういうことをしてみたい、こんな教師になりたい、こういう子どもたちを育てたい、といった思いを大切にしながら試験に挑むと、必ず結果はついてくると思います。頑張っていく中でしんどいことやつらいこともあると思いますが、そんな時は友達に相談したり、息抜きをしたりしながら自分のペースで頑張ってください。応援しています!

合格体験記

社会学部社会福祉学科
F.R.

合 格 先：京都府
校種・教科：小学校

1．受験した自治体・学校の試験内容について

〇1次試験
　・小論文試験（40 分間）
　・面接試験（15 分間、面接官2人）

〇2次試験
　・面接試験（20 分間、面接官3人）
　・模擬授業（10 分間、5人1グループ、試験官2人）
　・口頭試問（約5分間、試験官2人、模擬授業の内容や指導法などに関する質問）

【面接試験について】

〇1次面接
　時間は 15 分間で、面接官は2人の個人面接でした。
　〈質問内容〉
　　・趣味について（きっかけ、魅力、学んだことや身に付けたこと）
　　・教育ボランティア等について（学んだこと、児童生徒から学んだこと、支援例）
　　・「チーム学校」について（大切にするべきことなど）
　　・今の児童生徒に一番身に付けさせたい力とその理由、具体的方法について
　　・教育公務員と一般公務員の違いについて
　　・教育公務員としての認識、心構えについて
　　・関心のある教育問題とその理由について
　　・児童生徒との適切な距離感について
　　・今、教員になるに向けて取り組んでいることについて（それの活用法など）

〇2次面接
　時間は約 20 分間で、面接官は3人の個人面接でした。
　〈質問内容〉
　　・自分の小学校時代を振り返って思い出すことについて
　　・目指す教員像とその理由について

・これまでの生活の中で1つの目標に向けて取り組んだことについて（その理由や目標の決定の方法など）
・児童生徒とのSNS交換について
・京都府全域で勤務可能か
・併願はしているのか
・部活動等から学んだことについて
・関心のある教育課題とその理由について
・いじめについて（自分の見解、学級担任として早期発見への取組、学校としての早期発見への取組など）
・教育ボランティア等について（学んだこと、教員として活かしたいこと、苦労したこと、上手くいったと思うこと）
・自分が教員向きであると思う点とその理由について
・時間を切っての自己アピール

【模擬授業について】
一次試験の合格通知とともに、模擬授業の課題内容が同封で送られてきました。
授業時間は10分間で、5人1グループで授業を行いました。試験官は2人でした。
5つの課題の中から1つ選んで、その授業の導入部分の指導をするという内容です。
指導メモ（A4用紙1枚）のみ持ち込み可でした。
〈課題内容〉
・「〇〇になろう」表現遊び（1年生：体育）
・「割り算」（3年生：算数）
・「もみじ」（4年生：音楽）
・「大造じいさんとガン」（5年生：国語）
・「身のまわりの電気」からプログラミングの指導（6年生：理科）

【口頭試問について】
時間は約5分間で、試験官2人の個人面接の形式でした。
模擬授業の内容や教科の指導法などに関する質問でした。
〈質問内容〉
・模擬授業の自己採点とその理由について
・ICTの活用について
・模擬授業で一番気をつけたことについて
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」は模擬授業内で取り入れたか
・タブレットとノートを併用する授業において配慮するべきことへの見解について
・特別な教育的支援を必要とする児童への手立てについて

2. 教員採用試験対策について

【小論文試験について】

小論文は、過去の出題例について、制限時間（40 分）以内で書き切るという練習をしていました。そのような練習をすることで、次第に試験時間の感覚を掴むことにつながると思います。また、自分の中で序論・本論・結論、それぞれに何分ぐらい使うのかという目安を持つことにもなると思います。

そして、試験直前期には、「このお題が出題されたら、この3本柱で書こう」というような柱立てを構想していました。

私も教わってきたことですが、小論文は一般論で終わらせず、自分はどのような実践をしたいのかなど、具体的に記述することを意識して対策しました。

【面接試験について】

面接は、笑顔でゆっくり、具体的に、そして端的に伝えるという練習を心がけました。ボランティアなどで学校現場に入らせていただいて感じたことや学んだことを踏まえて、自分は教員としてどのようなことをしたいのか等の視点を持って具体的に伝える練習をしました。

また、「自己分析」と「自治体の分析」をしました。まず、「自己分析」では、なぜ教員になりたいのか、どんな児童を育てたいのか、なぜ京都府の小学校の教員なのかなどを明確にしていきました。そして、「自治体の分析」では、どのような教員が求められているのか、どのような教育方針なのか、自治体の強みはどこかなどを明確にしていき、それらに自分は教員として、どのように関わることができるのかについて考えていきました。そのような自分の考えていることなどを、面接ノートにアウトプットして、言語化していました。

面接練習をする中では、つい面接ノートに書いているような、整理された文章で伝えようとしてしまいがちですが、自分の想いを自分の言葉で熱く伝えるということが、相手に伝える上で非常に重要になるということを教わり、そのような練習を続けました。

面接練習を振り返ると、私は、4回生に入ってから面接ノートを作成したこともあり、少し焦ってしまうこともあったため、2月ぐらいの段階から作成すると良いかと思います。

【模擬授業について】

模擬授業は、指定された単元のうち1時間を選択して授業を構成しますが、単元全体を見通して授業の計画を立てていました。また、指導案を作成するだけではなく、自分が話す言葉も原稿として文字起こしすることで、余分な言葉を省くことやより簡潔な説明をすることにつなげました。

授業を構成する中で気を付けていたことは、本時のねらいをしっかり設定することや、ICT の活用、個別最適な学びと協働的な学びの視点、特別な教育的支援を必要とする児童への手立て、学習指導要領上での位置付けを明確にすることについてです。これらの視点をしっかり持っておくことで、根拠を持った授業設計をすることにつながり、口頭試問にもつながったと思います。

実際に授業練習で気を付けていたことは、30 人程度の児童全員を意識することや、言葉遣い、学習規律、板書の文字の大きさなどについてです。実際に、教室で小学生に授業をすることを想像して練習していました。

また、試験当日は、他の受験者の児童役もするので、自分の実施する模擬授業の単元だけではなく、他の教科の課題の単元についても目を通していました。

模擬授業は、何度も練習して、自分でビデオを撮ったり、他の人にアドバイスを貰ったりしながら改善していくと良いかと思います。

3. おわりに

学生同士で面接や模擬授業の練習をしたり、意見交流をしたりする中で、新たな気付きを得ることもありました。また、学生ボランティア等で学校現場に入らせていただいたことで、「絶対に教員になる!」という熱い思いを高めることになりました。教職課程の履修は時間的な余裕が少ないですが、実践的な学びは、教員採用試験の受験や教員として働く上でも役に立つ、学びの多いものだと思います。是非、「仲間づくり」や「学校現場での経験」も大切にしてみてください。

これから、教員採用試験の受験に向けて、試験対策等で大変になるかと思いますが、自分の教員としての軸を大切に持ちながら、頑張ってください。応援しています。

最後に、教員採用試験の当日が近づいてくるにつれて、不安や焦りが高まってきましたが、同じ志を持つ仲間と、お互いに声を掛け合うことで、乗り切ることができたと思っています。また、教員養成サポート室の先生、大学の先生などから、多々ご指導いただいたり、不安な思いを聞いていただいたり、精神面でもたくさん支援していただき、とても心強く、自信を持って試験に臨むことができました。ありがとうございました。

【免許資格課程センター事務室】

今出川校地：良心館1階　今出川キャンパス教務センター内

（TEL：075−251−3208）

京田辺校地：成心館1階　京田辺キャンパス教務センター内

（TEL：0774−65−7048）

※免許資格課程センターＨＰ：　https://license.doshisha.ac.jp/license/